

言語行動における 日本・台湾・マレーシア(マレー系)の比較

——大学生の挨拶行動を中心に——

馬 瀬 良 雄

岡 野 ひ さ の

杵 山 あ つ 子

伊 藤 祥 子

要 旨

信州大学人文学部馬瀬研究室が行った日本・台湾・マレーシアの言語行動調査資料の中から大学生の三つの挨拶行動を分析する。

1 家庭での挨拶 日本は万遍なく挨拶を行うのに対し、台湾は食事の前後、マレーシアは家族の送迎で挨拶は少ない。ことばは日本で定型が多い。マレーシアは身振り・ことばとともに宗教の影響が強い。

2 公園で友人に会った時の挨拶 出会い：日本は男は手を上げヨウ・オスなど、女はほほえんでオハヨウ、台湾は手を上げ、振り、ないしは握手等しながら“Hi”、“Hey”、マレーシアでは握手等しながら“Assalamualaikum”と言う。別れ：どこでも“Bye-bye”に由来する語が用いられている。なお、話す時の身体的距離は、日本・台湾・マレーシアとも同性で近く、異性で遠い。

3 買物時の挨拶 日本は客・店の人相互に挨拶するが、台湾・マレーシアでは店の人は挨拶し、客はしない傾向が見られる。

日本国内の地域差についても簡単に触れる。

1 はじめに

言語行動の国際比較は、1984年、国立国語研究所『言語行動における日独比較』（以下『日独』と略称する）の大著が刊行され、研究に弾みがついたとはいうものの、その後の成果は必ずしもそれほど多いわけではない。特に日本と他のアジア地域との言語行動の比較研究にその感が深い。このような状況のもと、アジア諸地域との交流が最近特に繁くなりつつある現在、この研究はその必要性和緊急性が高いと考え、私どもの研究室では1985年以来ささやかながら資料の収集と分析を行って来た。以下、言語行動における日本・台湾・マレーシア（マレー系）の比較を、大学生の挨拶行動——家庭での挨拶行動・公園での挨拶行動・買物の際の挨拶行動——を中心に述べ、さらに日本国内の地域差についても簡単に触れる。

本論に入る前に「言語行動」と「挨拶行動」について規定しておく必要がある。ここでは言語行動を「ある具体的場面におけることばの選択・使用によって行われる伝達行動の全体で、身振り・表情などの随伴行動をも含むものとする」とする。そして挨拶行動を

(2) 言語行動における日本・台湾・マレーシア(マレー系)の比較

「挨拶を中心に行われる言語行動」とし、「挨拶」を「人と人との関係を円滑にする、または円滑な状態を維持・強化するために行う社交・儀礼的な行動様式の一つ」とする。以下の論述でのこれらの術語は上の規定に基づいて用いる。

なお、本文・注・図・表で日本・台湾・マレーシア・ドイツをそれぞれ日・台・マ・独と略称することがある。

2 調査の概要

調査は1985年から88年にかけて行った。インフォーマントの内訳等は表1を参照されたい。^{注1}調査地は日本人学生は日本、台湾の学生は台湾、マレーシアの学生(マレー系)はマレーシアである。調査票は日本語版と中国語版^{注2}を作成した。前者は日本、マレーシアで、^{注3}後者は台湾で用いた。調査票作成にあたっては『日独』に負うところが多く、また徳川(1985)をも参照した。

注1 なお、中高年層の調査も日本及び台湾で若干数行っているが、小論は大学生を対象としているのでこの表からは省いてある。

注2 中国語版調査票作成にあたっては、中国語を母語とする者(A)が日本語版調査票を中国語訳し、それを同じ条件の者(B)に日本語に再翻訳させ、元の日本語版調査票と比較し、翻訳が適正かどうかを検討した。

注3 マレーシアのインフォーマントは日本語を900時間程度学習した学生である。ここでは日本語調査票に若干の英語による説明を書き加えた。また、調査票のわからない部分への質問には、口頭で説明を行った。

表1 インフォーマントの地域・所属・性別等一覧表

	所 属	男性	女性	計	調査年
日 本	信州大学	49人	28人	77人	'85~'86
	高知大学	22	38	60	'87
	高知女子大	7	39	46	'85
	計	78	105	183	
台 湾	輔仁大学	43	56	99	'87
	中原大学	25	25	50	'88
	淡江大学	24	26	50	'88
	東呉大学	23	25	48	'88
	計	115	132	247	
マ レ ー シ ア	マラヤ大学 予備教育 課程-マレー系	37	25	62	'86

3 家庭での挨拶行動

家庭での挨拶行動として、次の6場面につき、挨拶行動の有無・その時のことば・身振りについて質問した(小論末の調査票抜萃参照)。

- ア) 夕食を食べ始める時 イ) 夕食を食べ終えた時 ウ) 自分が外出する時
エ) 自分が帰宅した時 オ) 家族が外出する時 カ) 家族が帰宅した時

3.1 挨拶をするか、しないか 図1を参照されたい。図は各場面での「挨拶をする」の回答を男性・女性・全体について百分率で示したものである。なお、互いに関係する場面をアとイ、ウとエ、オとカという一本の軸上に表わした。これを見ると、日本ではどの場面でも平均してよく挨拶するのにに対し、台湾では夕食の前後の挨拶が少なく、マレーシアでは家族の外出・帰宅時の挨拶が少なく、向きは違いがほぼ長方形を形作ろうとしている。また、マレーシアでは外出時の挨拶は、自分と家族の区別なく、帰宅時のそれを上回り、この点、日本・台湾と対照的である。

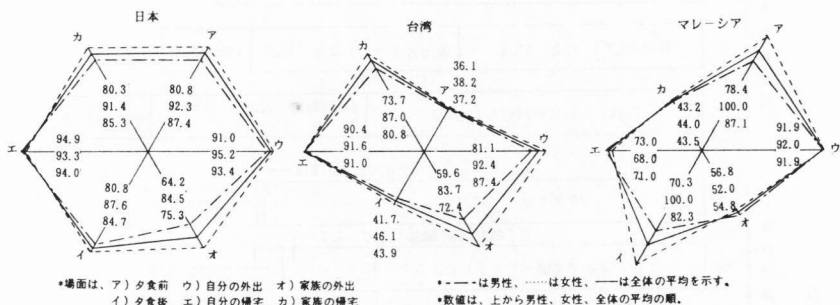


図1 挨拶をするか、しないか(家庭)

注1 『日独』(pp.106)によれば、ドイツでは夕食の前に対し、後の挨拶の数値は極めて低い(前69.7%〈社会人〉・58.1%〈学生〉/後28.4%〈社会人〉・20.0%〈学生〉)。今、50%以上を+、未満を-とし、/の左右にそれぞれ夕食前と後とを配するならば、日・マ+/+、台-/-、独+/-と図式化することができる。なお、台湾の数値は第2次調査票による(7.1.3参照)。

3.1.1 性差 台湾では、数値の大小はあるが、どの場面でも女性が男性よりもよく挨拶をする。日本でもほぼ同様である。これに対しマレーシアでは、夕食の前後の挨拶は女性が男性をかなり上回り、はっきりした性差があるが、他の場面ではそれはほとんど認められない。

3.2 挨拶のことば 図2を見られたい。日本では全場面にわたり挨拶のことばの定型性が極めて強い。また他と比べ、オトウサン・オカアサンなどの呼び掛け語がほとんど使われない点も特徴的である。台湾では日本と異なり、定型と言えるものは少ない。また、台湾では自分の外出時の挨拶として〈我出去○○〉型をとり、○○の部分に行先を示す語(例えば〈学校〉)や目的を示す語(例えば〈買東西〉一品物を買いに-)の来るものが過半を占める。かかる型式は他では全く認められないものである。

(4) 言語行動における日本・台湾・マレーシア(マレー系)の比較

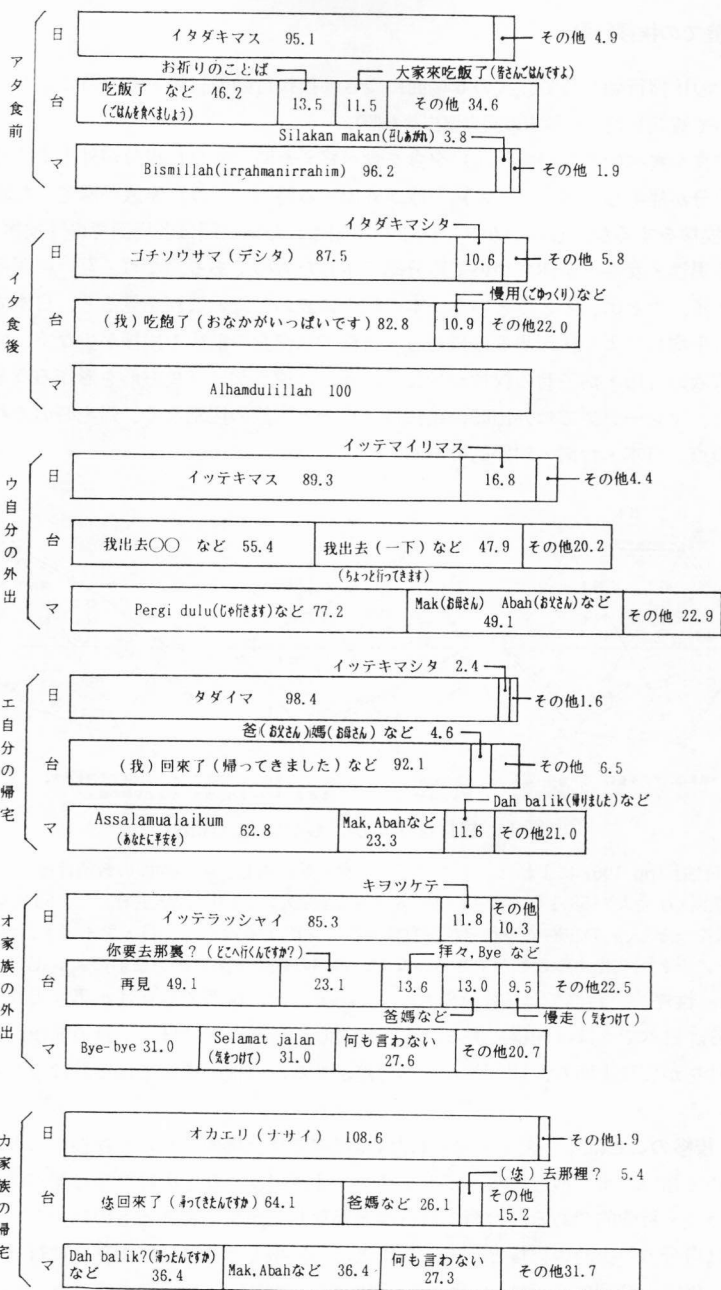


図2 挨拶のことば(家庭)

インフォーマントが全員イスラム教徒のマレーシアでは、宗教の影響が強く見られる。夕食前の“Bismillah(irrahanirrahim)”（慈悲深く慈愛遍きアッラーの御名において）、夕食後の“Alhamdulillah”（アッラーに讃えあれ）、自分の帰宅時の“Assalamualaikum”^{注2}（あなたに平安を）は、いずれもアラビア語で、イスラム教徒の挨拶である。マレーシアの第2の特徴は、夕食前の挨拶を除き、“Mak”（お母さん）、“Abah”（お父さん）などの呼び掛け語が文頭または文尾によく用いられることである。これは台湾でも若干認められる。第3には身振りだけで「何も言わない」の回答が家族の送迎の場面に多い。第4として、夕食の前後には定型が排他的に用いられるが、他の場面では必ずしもそうではない。

注1 図の数値は回答数を人数で割り、100を掛けて算出したものである。従って複数回答のあるものは、数値の和が100を超える。また、同じ類に属する複数回答もそれぞれ異なる回答として計算した。以下の図表の数値も特に断らない限り、この算出方法による。

注2 下中邦彦（1982、p. 37）によれば、ほぼ次のとおりである。

“Assalamualaikum”はイスラム教徒同士が用いる挨拶で、季節や一日の朝夕などの時を問わず、また出会いと別れの場面の別なく、さらには男性に対してだけでなく女性や子供に対しても用いられる。

3.3 身振り まず、表2を見て欲しい。そこには18の身振りの選択肢が並んでいる。このうち⑮⑯⑰はマレーシアでのみ採用したものである。

表3を参照して欲しい。日本では夕食の前後に40%以上が⑬「手を合わせる」を選択し、他と著しい対照を示している。ただし、⑬には日本国内の地域差もからんでいる（6.1.2参照）。他の場面では①「何もしない」が圧倒的に多く、他と比べ際立っている。台湾では、夕食の前後、自分の外出・帰宅では①が多く、家族の外出・帰宅ではそれぞれ⑦「手を振る」、⑤「ほほえむ」が第1位を占める。

表2 身振りの選択肢

身振りの選択肢	
① 何もしない	⑪ 帽子に手をやる
② おじぎをする	⑫ 帽子をとる
③ 会釈する	⑬ 手を合わせる
④ 正座しておじぎをする	⑭ 御飯の入っている器を捧げ持ち感謝する
⑤ うなずく	⑮ 手を上下に重ねてその手を胸の辺に持って行く
⑥ 相手の顔を見てほほえむ	⑯ 握手してその手を胸にやる
⑦ 手をあげる	⑰ 相手の手をとってキスする
⑧ 手を振る	
⑨ 握手する	
⑩ 抱き合う	
⑪ キスする	

表3 場面別・地域別・身振り一覧表(家庭)

場面 地域	ア. 夕食前			イ. 夕食後			ウ. 自分の外出			エ. 自分の帰宅			オ. 家族の外出			カ. 家族の帰宅		
	日	台	マ	日	台	マ	日	台	マ	日	台	マ	日	台	マ	日	台	マ
身振り																		
①何もしない	32.9	47.8	63.4	33.1	53.2	64.9	78.9	60.8	22.7	88.9	60.6	55.9	78.4	29.4	4.0	83.6	42.0	18.2
①おじぎをする	11.0	2.2		12.2	2.1		0.6				0.6		0.9	0.7			0.6	
②会釈する	29.0	13.0	2.4	31.8	21.3		1.9	5.8		1.2	12.1		0.9	9.8		2.1	8.9	
③正座しておじぎをする																		
④うなづく	1.3	2.2		1.4			0.6	0.6	6.8	0.6	0.6	2.9		4.2		0.7	1.3	4.5
⑤ほほえむ		13.0		10.6			8.1	11.1	4.5	8.0	19.4	17.6	9.9	18.9	20.0	11.6	43.9	63.6
⑥手をあげる				2.1			6.8	4.1	6.8	1.2	1.2		1.8	2.1	4.0		0.6	
⑦手を振る		2.2		4.3			5.0	24.0	63.6	0.6	4.8		18.0	49.7	72.0	1.4	1.9	4.5
⑧握手する									4.5			11.8			4.0		0.6	4.5
⑨抱き合う									2.3		2.4	2.9					1.9	4.5
⑩キスする											0.6	2.9						
⑪帽子に手をやる																		
⑫帽子をとる											1.2					0.6		
⑬手を合わせる	46.6	4.3	2.4	41.9		2.7												
⑭器を棒び持つ		6.5		6.4														
⑮手を重ね胸の辺へ			29.3			32.4									4.0			
⑯握手して手を胸へ																		4.5
⑰相手の手をとってキス																		4.5
その他	1.9	6.6	2.4	0.7	8.5			3.0	2.3		0.6	2.9		0.7		1.4	1.9	

マレーシアでは⑩に続き⑮「手を上下に重ねその手を胸の辺に持って行く」が多いが、これはイスラム教に基づくものである。また、自分と家族の外出場面では⑦「手を振る」が際立って多くなる。夕食以外の場面で⑧「握手する」、⑨「抱き合う」、⑩「キスする」、⑯「握手してその手を胸にやる」、⑰「相手の手をとってキスする」など身体的接触を伴う身振りが、数値は低いが見られている。このうち⑧⑨⑩はマレーシアよりもさらに低い数値ながら、台湾にも現れる。これに対し日本では身体的接触を伴うこれらは皆無だった。

注1 ドイツでは夕食の前後を除く4場面すべてで、⑩「キスする」が最も多く、⑨「抱き合う」、⑧「握手する」も行われている(『日独』pp.107)。

4 公園での挨拶行動

「日曜日の朝、公園を散歩をしていると、親しい友人に出会った」という場面を設定し、挨拶行動を中心に質問した(小論末の調査票抜粋参照)。その中から、1 出会いと別れの際の挨拶行動、2 友人との身体的距離について述べる。

4.1 出会いと別れの際の挨拶行動

4.1.1 出会いのことは 図3を見られたい。日本では性差があり、女性ではオハヨウ類が90%以上を占めるのに対し、男性ではヤア、オス等短い間投詞的表現が過半を占める。この傾向は『日独』(p.132)でも日本の特徴として指摘されているが、今回の調査では性差はさらに明確になったと言える。一方、台湾・マレーシアでははっきりした性差は現れない。台湾では「お早よう」にあたる〈你早〉はあまり用いられず、男女とも外来語〈嗨〉(Hi) や 〈嘿〉(Hey) などが多用される。マレーシアでは宗教がことばの選択に影響を及ぼしている。相手がイスラム教徒なら“Assalamualaikum”を用い、そうでなければ“Hi”や“Hello”または“Apa kabar?”(How are you?)を使うとする回答が、宗教について質問を全くしなかったにもかかわらず、約15%現れたことは注目に値しよう。

	1. オハヨウ (ゴザイマス)			2. ヤア、オス、ヨウなど			3. その他			4. その他		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
日	72.7	31.1	9.3	(47.4)	(57.7)	(12.8)						
台	66.8	20.6	19.8	23.1	18.5							
マ	60.0	40.0	25.0	21.7	11.7							

図3 出会いのことは

4.1.2 別れのことは 図4を見て欲しい。まず日本。一般的な別れのことばとされるサヨウナラは、学生ではほとんど影をひそめ、男女とも(ソレ)ジャア〜(ソレ)ジャアネなどが多く、女性ではバイバイもよく用いられる。台湾では出会いの場面と同様性差はなく、〈再見〉(さようなら)が半数を超えるが、外来語〈拜々〉(Bye-bye)も40%近く現れる。マレーシアでは、出会いの場面ほどには宗教の規制は働いていない。ことばとしては

(8) 言語行動における日本・台湾・マレーシア(マレー系)の比較

“Jumpa lagi” (See you again) や “Bye-bye” などが現れる。また、はっきりした性差はない。日・台・マともに “Bye-bye” に由来する外来語が学生達の別れのことばとして用いられている。この語の今後の伸長が予想される。

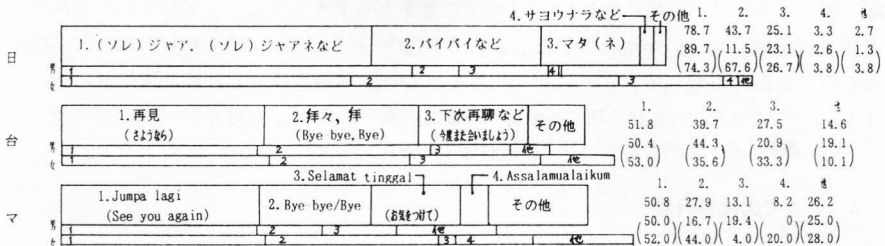


図 4 別れのことば

4.1.3 会合の際の身振り 図5を見ていただこう。日本では性差が見られ、女性では⑤「ほほえむ」を3/5の者が回答し、⑦「手を振る」37%、⑥「手をあげる」22%と続く。これに対し男性では⑥を3/4を越す者が回答し、⑤がこれに続き、⑦は13.2%と少ない。日本では女性に⑦「手を振る」、男性に⑥「手をあげる」がよく用いられている。この傾向は『日独』(p.133)でも指摘されている。台湾・マレーシアでは性差は日本ほど顕著でない。台湾では日本にはない⑧「握手する」が男女を平均すると、2割弱、また、ごく少率ながら⑨「抱き合う」が現れる。マレーシアでは⑧「握手する」がさらに高い数値を示し、⑩「握手してその手を胸にやる」という独特の身振りも現れる。一方、⑦「手を振る」はほとんどなく、日本や台湾と異なる。

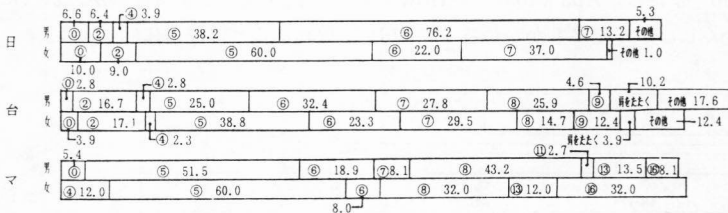


図 5 会合の際の身振り

4.1.4 別れの際の身振り 図6を参照して欲しい。日本では会合の時よりもさらに性差は顕著になり、男性では⑥「手をあげる」、女性では⑦「手を振る」が各々8割以上を占めている。台湾・マレーシアでは会合と同じく性差があまりない。台湾では⑦「手を振る」が圧倒的に多く、また日本にはない⑧「握手する」が男女とも10%前後だが現れている。マレーシアでも会合にはほとんど現れていない⑦「手を振る」が最高値を示し、⑧「握手する」と⑩「握手してその手を胸にやる」という握手を含んだ身振りをとると、男女とも40~50%と多いのが特徴的である。

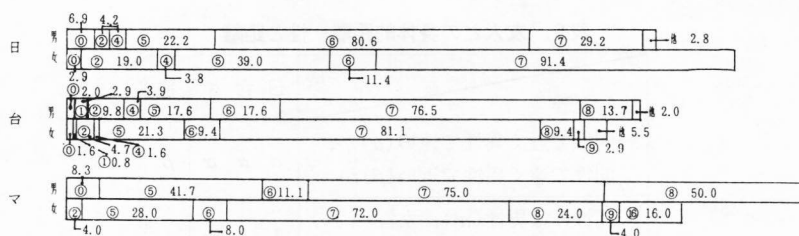


図6 別れの際の身振り

「手を振る」は日・台では出会いの場面にも現れているので、「別れ」だけを意味する身振りとは言えない。だがマレーシアでは「手を振る」が「家庭での挨拶行動」の外出の場面でも際立って多いことを考えると、「手を振る」は「別れ」と強く結びついていると言える。また⑧「握手する」は、日本には全く現れず、台湾には若干現れ、マレーシアで最も高い数値を示す。特にマレーシアでは⑧及び握手を含む身振り⑩の数値の和は上に述べたように多い。なお、ドイツの社会人及び学生の「握手する」の数値もかなり高い（『日独』p. 138）。

4.2 友人との身体的距離 出會って立話をしている時の友人との距離を、友人が同性か異性かの二つの場合について尋ねた。友人との距離を「握手できない」1点、「握手できる」2点、「体に触れられる」3点、「抱き合える」4点として点数化すると、表4のようになる。従って表の点数は数値が大きいくほど接近度の高いことを示す。なお、ドイツの数値は『日独』所載の資料（同書 pp. 326）により計算した。

日・台・マのいずれも、男女とも同性で近く、異性で遠くなる傾向を示す。この点同性で近く、異性で近いドイツと極めて対照的である。また、同性に対しては日・台・独では女性の方が近い距離で話そうとするのに対し、マレーシアでは逆に男性の方が近い距離をとる点に特色がある。そして異性に対しては、日・台・マは男性の方が女性よりも近い距離で話そうとしており、この点ドイツとは異なることがわかる。以上まとめると表5のようになる。これをみると、接近度は、日本は台湾と最も近い傾向を示し、マレーシアとは少し遠く、ドイツとはさらに遠い、そしてマレーシアとドイツは最も遠い関係にあることがわかる。

表4 友人との身体的距離—点数—

地域	性	同性に対し		異性に対し	
		男性	女性	男性	女性
日		1.95	2.26	1.86	1.79
台		2.50	2.65	2.08	1.98
マ		2.33	2.25	1.65	1.57
独		2.67	3.03	3.21	3.40

独の原資料は『日独』（pp.326）による。

(10) 言語行動における日本・台湾・マレーシア(マレー系)の比較

表5 友人との身体的距離—性と距離

性 と 距離	地域			独
	日	台	マ	
同性で近く異性で遠い(α)か、 同性で遠く異性で近い(β)か	α	α	α	β
同性には男性(m), 女性(f)の どちらが近い距離で話すか	f	f	m	f
異性には男性(m), 女性(f)の どちらが近い距離で話すか	m	m	m	f

5 買物の際の挨拶行動

買物の際の挨拶行動として、近所の知っている店で物を買う場合を想定して、次の質問を行った。客が店へ入る時・店を出る時の客及び店員の挨拶行動、品物・代金の受け渡しの際の言語行動、がそれである（小論末の調査票抜萃参照）。

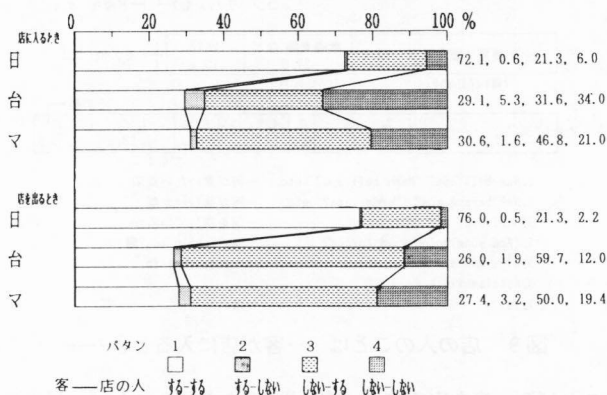
5.1 店へ出入りの際、挨拶をするか、しないか 表6を参照されたい。この表を見ると、店へ入る時、出る時、日本は客、店の人それぞれ「挨拶をする」という数値が極めて高いのに対し、台湾・マレーシアではどの場面も日本よりも低い。中でも客の挨拶の数値が日本の半分以下である点に大きな違いがある。また、日本・マレーシアでは、客も店の人も入る時と出る時の挨拶をする数値はあまり変わらないのに対し、台湾では、客は入る時に、店の人は客が店から出る時に、より多く挨拶をしている。特に後者は数値の差が大きい。次に、客と店の人との間で「挨拶をする・しない」を組み合わせると四つのパターンとして示すと、図7のとおりとなる。表6からもある程度予想されたことだが、日本は店への出入りの際客と店の人が互いに挨拶を交わすパターン1の数値が圧倒的に高いのに対し、台湾・マレーシアでは相互に何もしないパターン4と店の人だけ挨拶をするパターン3の数値を合わせると、全体の65%を超える。

5.2 挨拶のことは(1)—店に入る時— 客：図8を参照されたい。図には性差は表わされていないが、日本では男女ともコンニチハが最も多い。これに続くのはゴメンクダサイだが、これは女性のみに現れ、女性の2/5以上が用いている。台湾では〈老闆〉(マスター)

表6 挨拶をするか、しないか(買物)

出入	地域 人	日	台	マ
入る時	客	72.7	34.4	32.2
	店の人	93.4	60.7	77.4
出る時	客	76.5	28.0	30.6
	店の人	97.3	85.8	77.4

図7 挨拶をするか、しないか——パタン化——(買物)



を筆頭に、〈要買〇〇囉〉(〇〇が買いたいです)、〈你好〉、〈嗨〉(Hi)などが続く。マレーシアでは“Hello”、“Apa kabar?” (How are you?), “Saya mahu~” (I want~) ほかが見られるが、定型とは言えない。どこでも「こんにちは」にあたる挨拶ことばをほぼ半数以上の者が用いているほか、台湾では「老闆」のような店の人を指す語が用いられる点に特徴がある。また、台湾・マレーシアでは「～が買いたい」と品物を明示した希求表現が見られる。

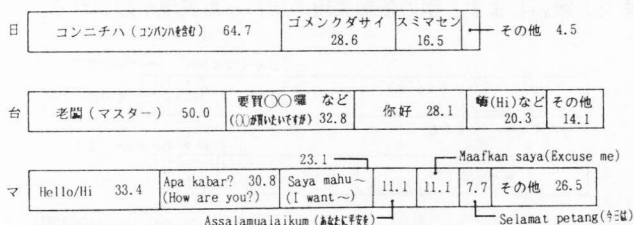


図8 客のことば——店に入るとき——

店の人：図9を参照されたい。日本は迎え入れのことばイラッシャイマセが90%以上を占め、高い定型性を示す。これとは対照的にマレーシアでは定型はなく多様である。そして迎え入れのことばとともに、“Nak (barang) apa?” (何にいたしましょうか) ほかの質問型が2/3程度ある点に特徴がある。台湾は両者の中間にあり、質問型〈(你) 要買什麼?〉(何にいたしましょうか) と迎え入れ型〈歡迎光臨〉、〈你好〉とがほぼ同じ数値を示す。

(12) 言語行動における日本・台湾・マレーシア(マレー系)の比較

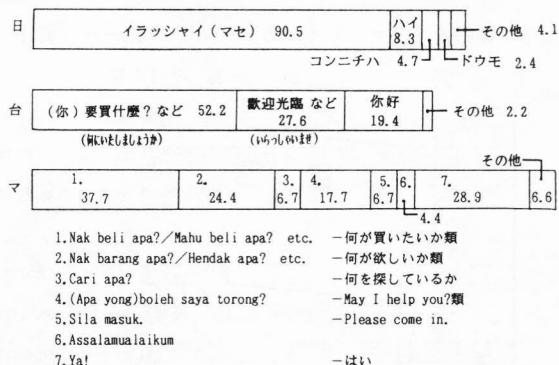


図9 店の人のことば——客が店に入るとき——

5.3 挨拶のことば(2)一店を出る時 客：図10を参照されたい。日本は感謝表現アリガトウ(ゴザイマシタ)を半数以上の人、ドウモを2/5程度の人が用いている。性差も顕著で、アリガトウ(ゴザイマシタ)は女性にドウモは男性に多い。サヨウナラのような別れのことばは、ソレジャ(マタ)を含めても1割強どまりである。この点は台湾で感謝表現〈謝々〉に次いで別れのことば〈再見〉を1/3程度の人用いている点とコントラストを示す。マレーシアでは“Terima kasih”(Thank you)が2/5を占めるが、残りは極めて多様であり、別れのことば“Bye-bye”も少数ながら現れる。

店の人：日・台・マのあいだで特徴的な差はない。図表は省くが、どこでも感謝表現のみよりも、「またお願いします」型の依頼表現の加わった表現が好まれる。

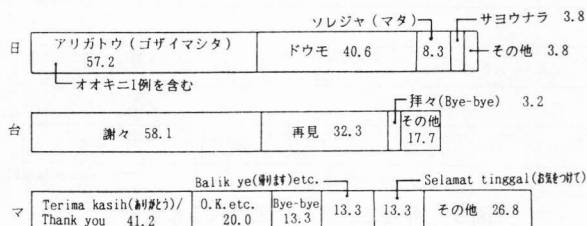


図10 客のことば——店を出るとき——

5.4 品物・代金の受け渡しの際の応答 客：図表は省くが、日本では3/4近くの人ハイと言って代金を渡すのに対し、台湾では「何も言わない」が3/5を超える。マレーシアはこの点日本と台湾の中間に位置するが、金額を言って払う人については性差があり、女性は金額を告げ、男性は告げない傾向が強い。

店の人：図表は省くが、店の人の売り方について、①「何も言わない」②「ありがとう(ございます)」③「代金やお釣りの金額を確かめたり言ったりする」の三つの選択肢を設けた。日本では③が②を上回り、①は2.9%と微々たる数値を示す。これを③>②>①と図

式化することができる。これに対し、台湾では感謝表現が1位となり②>③>①となる。マレーシアでは①「何も言わない」が増加して③と同率となり、②>③=①となる。

6 (付) 日本国内の地域差

以上では、日本人学生の言語行動を、一括して、あるいは男女に分けて、論述して来た。だが、日本国内の地域差が若干の項目で認められる。次に簡単にこの点について述べる。

6.1 夕食の前後の挨拶

6.1.1 ことば 東京型のイタダキマス——ゴチソウサマ(デシタ)に対し、イタダキマス——イタダキマシタが13.5%認められる。この型を使う者の出身地を見ると、長野県17名(43名中)、静岡県・岐阜県各1名(ともに4名中)とまとまっており、明らかな地域差を示す。^{注1}

注1 ここには義務教育でのこの挨拶の教育の問題もからんでいよう。長野県では最近までイタダキマス——イタダキマシタの指導が行われていた。中條修(1982, p. 224)によると、静岡県では東京型とこの型との間には地域差があり、後者イタダキマス——イタダキマシタ型は東は富士市、富士宮市辺、西は島田市辺にかけて優勢に使われ、沼津市辺は両者を併用する。また、教育については長野県と同様である。さて、学生対象の調査では現れなかったが、この型は山梨県でも中高年層では行われている。

この型と同じタイプに属するものに、外出時と帰宅時の挨拶、イッて来マス——イッて来マシタ、イッて参りマス——イッて参りマシタがある。これらは学生の資料にはほとんど現れなかったが、中高年層では長野県に認められる。静岡県でもこの型のあることは中條修(1982, p. 224)によってわかる。

6.1.2 身振り 夕食の前後の挨拶として、身振り⑬「手を合わせる」に地域差が認められる。この回答者の出身地を見ると、西日本は夕食前78.1%、夕食後85.2%と最も多く、東日本はそれぞれ12.3%、6.6%、長野県はそれぞれ9.5%、8.2%で、これら二つの地域での数値は夕食の前後ともに極めて低い。なお、地域区分については、長野県出身者が比較的多い(全体の24.0%)ことを理由にこれを独立させ、以东を東日本、以西を西日本とした。

6.2 買物の際における客の挨拶

6.2.1 挨拶をするか、しないか 客が店に入る時、店を出る時の挨拶の有無についても、かなり明瞭な地域差がある。客は、長野県では入る時、出る時、ともに88.7%が挨拶をするのに対し、西日本はそれぞれ68.3%、70.4%とこれに次ぎ、東日本はそれぞれ60.5%、50.5%と最も少ない。日本人学生の「挨拶をする・しない」の数値は歴然たる地域差を内包していることが明らかとなった。しかし、挨拶の最も少ない東日本でも、その数値は台湾・マレーシアと比較すると、なお高い数値を有し、日本は店に入る時、出る時、客がよく挨拶をするとした先の結論は少しも揺らぐことはない。

6.2.2 店を出る時の客のことば 客が店を出る時店の人にアリガトウ(ゴザイマシタ)を言う数値を見よう。最も高いのは長野県出身者で、56.8%の者がアリガトウ類を使う。これに続くのが西日本出身者の46.9%で、東日本出身者では10%を割る。アリガトウ類

(14) 言語行動における日本・台湾・マレーシア(マレー系)の比較

は長野県を含めそれより西の地方では数値が高く、東では数値の低いことがわかる。^{注1}

注1 なお、5.3で触れたように、アリガトウ類とドウモの使用には性差がある。そこで各地域をさらに男女に分けて検討し、この結論に変わりのないことを確認した。

7 おわりに——反省・今後の課題等——

以上、日本・台湾・マレーシア(マレー系)の言語行動を学生の挨拶行動を中心に結果の概要を述べ、(付)として日本国内の地域差にも簡単に触れた。反省・今後の課題等も多く、その幾つかについて手短かに述べる。

7.1 調査への反省

7.1.1 インフォーマントの選定 インフォーマントの選定は個人の伝手を求めて行われたため幾つかの問題点も生じた。例えば日本をとると、インフォーマントの出身地、男女の比率に偏りが出、また、大部分が文系で占められるなどが挙げられ、一方、マレーシアではインフォーマント数が少ないこと、また、日本同様、男女の比率に偏りがあることなどが挙げられる。当然周到に計画されたサンプリング調査によるべきだったとの批判も甘受せねばならない。

7.1.2 項目の選定 一つだけ取り上げると、『日独』(pp. 351)でも述べられているが、日本で「有徴」の言語行動は項目として採用されやすいが、「無徴」のそれは、国際比較として重要な場合でも欠落しがちである。かかるものは今後補う必要がある。

7.1.3 翻訳の問題 翻訳の問題は、言語行動調査の場合に限らず、国際比較を目的とした調査では絶えず深刻な問題をかかえている。2の注1で述べたように、中国語版調査票作成では日本語版調査票の中国語への翻訳、さらにその日本語への再翻訳という手続きをとり、両者を比較し、翻訳が適正かどうかを慎重に検討した。にもかかわらず問題は起こった。

夕食の前と後の挨拶行動の結果を中国語版第1次調査票と第2次調査票とで比べて見ると、「挨拶をする・しない」の数値は図11で示すようになりに異なる。特に夕食前の数値

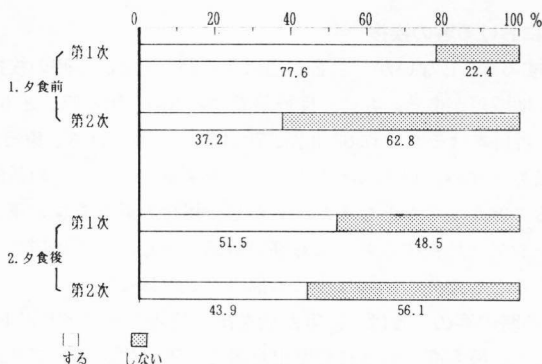


図11 夕食の前後の挨拶——台湾 第1次・第2次調査票による比較

の変動が大きい。ここではその差の大きかった夕食前の挨拶行動についての質問文を取り上げよう。まず、日本語版調査票の質問文を小論末尾において見られたい。次にこの質問文を中国語に翻訳した第1次調査票と第2次調査票の質問文を掲げる。

第1次調査票

當您在家中、開始吃晚餐時、總會打個招呼嗎？（あなたは家で夕食を食べ始める時、いつも挨拶〈招呼〉をしますか）—以下略—

第2次調査票

當您在家吃晚餐時、坐在餐桌前即將開始吃飯時、您是否說了什麼後再吃呢？（あなたはいつも家で夕食を食卓に座って食べ始める時、あなたはなにと言ってから食べますか）—以下略—

第1次調査票によるこの項目の結果に留学生から疑問が出され、質問文を詳しく検討し、第2次調査票ではより具体的でわかりやすい質問文に改めたものを用いた。台湾では食事を始める際の挨拶は一般に「無徴」であることが多いが、「挨拶」の第1次調査票の中国語訳「招呼」により、ことばとして「大家來吃飯了（皆さん、ごはんですよ）」のような、皆を呼び集める表現が多く現れ、また、「挨拶をする」という回答が80%近くも出て来たのである。^{注1} 両調査票のインフォーマントは異なるが、ともに同じ年代の同じ身分の大学生であるので、両者の数値の差は質問文の違いによるところが大きいと判断される。第1次調査票作成の際、日本語の「挨拶」と中国語「招呼」の意味範囲が少しずれている^{注2}ことへの配慮がやや欠け、翻訳が多少機械的であったことを反省し、さらにこの種の問題は再翻訳によっても防止できないことを確認することとなった。

注1 第2次調査票によっても「大家來吃飯了」が10%あまり現れた。だが、図2ではこれを誤答として排除することはせず載せた。一般にある個人にとって「無徴」の言語行動についての調査は、慎重を期すべきことがわかる。インフォーマントはその場合、何を尋ねられているか判断に苦しむことがあるからである。

注2 この点は「挨拶」と英語の「greeting」やドイツ語の「Gruß」でも同様である。『日独』の調査票のこの部分を見ると、日本語版「夕食を食べ始めるとき、きまったあいさつをしますか」の下線の部分に対し、ドイツ語版は、“Was sagen Sie vorher zu Ihren Familiengliedern?”（あなたは家族の者に〈夕食の〉前に何と言いますか）となっていることを付け加えておく。^{注1}

7.2 今後の課題 資料の補訂、マレーシアにおける中国系資料のまとめと日・台・マ（マレー系）との比較、中高年層資料の分析と学生のそれとの比較等々今後の課題は多い。

だが、以上とともに大きな課題はおそらく次のことであろう。小論は挨拶行動の実態と特徴の記述に終始した。この上に立ち、かかる実態と特徴が、その国なり民族なり地域なりの文化や社会とどう関わっているかを明らかにし、その法則を導き出すこと——この課題こそ最大のものであろう。

国際化時代を迎え、国際交流の促進が叫ばれる一方で、文化摩擦も深刻さを増している現在、言語行動の国際比較の研究はこの学問自体の発展に寄与するだけではなく、その成果は日本語教育・外国語教育の改善と進展などを始めとする幅広い応用的部門で活用されるべきものであらうと思う。

注1 信州大学人文学部学生袁秀芳が1988年調査を行い、まとめを行っている。

(16) 言語行動における日本・台湾・マレーシア(マレー系)の比較

参考 言語行動日本語版調査票(抜粋)

1 家庭における挨拶行動

Q 1. あなたは、家で夕食を食べ始めるとき、いつもあいさつをしますか。

1. しない

2. する→ことば_____

→身ぶり () () () その他〈具体的に〉_____

Q 2. あなたは、家で夕食を食べ終わったとき、いつもあいさつをしますか。 —以下略—

2 公園での挨拶行動

「日曜日の朝、あなたが公園を散歩していると、親しい友人に出会った。」という場面を考えて下さい。

Q 1. あなたは、その友人に何とあいさつをしますか。

1. あいさつのことば_____

2. 身ぶり () () () その他〈具体的に〉_____ —中略—

Q 4. また、話をしているとき、その友人とあなたとの間の距離はどうですか。

①友人が同性の場合 ()

②友人が異性の場合 () それぞれ () の中に番号を書いて下さい。

1. 握手できないくらいの距離。

2. 握手できるくらいの距離。

3. 相手の体に触れられるくらいの距離。

4. 抱きあえるくらいの距離。体が触れあうくらいの距離。 —以下略—

3 買物の際の挨拶行動

近所のよく知っているお店(例えば、雑貨店など)で買物をする場合について質問します。あなたは、品物を買うときどんな買い方をすることが多いですか。また、お店の人はどのように売りますか。

Q 1. あなたは、そのお店に入っていくとき、どうしますか。

1. だまって入っていくことが多い

2. 何かあいさつをする →その具体的なことば_____

Q 2. あなたがお店に入っていくと、お店の人はどうしますか。

1. 何も言わない

2. 言う →その具体的なことば_____ —中略—

Q 3. あなたは、お金を払うとき、どうしますか。

1. (値段がわかっているので) 何も言わないでお金を出す。

2. 「はい」などと言ってお金を出す。

3. 出す金額を言ってお金を出す。 例:「千円をお願いします。」 —以下略—

〔後記〕 小論は国語学会昭和63年春季大会研究発表会での発表原稿に加筆したものである。言語行動の資料収集では高知女子大学高橋顕志助教授、輔仁大學外國語學院日文系主任山崎陽子

教授ほかの方々、信州大学大学院人文科学研究科学生張雪玉・劉文恒・莊蕙萍、信州大学人文学部学生袁秀芳・李秋慧ほかの諸氏、多くのインフォーマントの方々からご協力を賜った。また、学会では多くの方々より有益なご助言をいただいた。記して感謝申し上げる。

〔参考文献〕

- 国立国語研究所 (1984) 国立国語研究所報告 80『言語行動における日独比較』三省堂
 徳川宗賢 (1985)「ことばづかいの風土性」(『日本の風土』弘文堂)
 小野寺典子 (1987)『日本人と台湾人の非言語行動の比較対照』(荻野綱男編『埼玉大学教養学部言語学報告 6』)
 下中邦彦編 (1982)『イスラム事典』平凡社
 中條修編 (1982)『静岡方言の研究』吉見書店
 ——ませ・信州大学人文学部教授、おかの・信州大学人文学部助手、いりやま・長野県奥鹿教湯温泉病院言語療法科、いとう・信州大学大学院人文科学研究科学生——

(昭和 63 年 8 月 31 日 受理)